

Neues in Nara

Nr.81

2022年10月28日



オミクロン株がドイツで増え始めた今年2月でも、多くの買物客がみられた。(デュッセルドルフ Altstadt)

Japanisch-Deutsche Gesellschaft Nara (JDG-Nara)

奈良日独協会 (会長 河野良文) 奈良市大安寺 2-18-1 大安寺内

Tel/0742-61-6312, Fax/0742-61-0473

<http://www.daijanji.or/jdgn/index.html>

編集: 林 (hayashiy@zeus.eonet.ne.jp) 峯本 (hmine-24@m3.kcn.ne.jp)

編集委員より: 会員の皆様からの積極的なご投稿をお待ちしています!

●行事予定

1. クリスマス会

日時: 12月4日(日)17時~19時30分

場所: 「北京料理 奈良百楽」(近鉄奈良駅ビル8F)

電話: 0742-24-2771) 会費: 会員 6000円、学生 3000円(詳細は別途案内チラシでお知らせします。)

2. 国際縁日

11月3日(木・文化の日) 11:00より大安寺にて開催される。大安寺国際縁日実行委員会の主催、当会共催。催しは河野会長(貫主)との対談、コンサートの他、当会若手会員によるボードゲームを行うほか、当会水野恵理子理事主宰のアゴラ音楽クラブによる和太鼓演奏と多岐にわたる(詳細別途ご連絡の通り)。

3. トラウツ先生没後70年記念法要と高野山根本大塔拝観バスツアー 11月20日(日)

当協会設立の原点となった故F. M. トラウツ教授と前会長の出会いの場である高野山を訪ね、教授の墓前での没後70周年記念法要と、「高野山根本大塔」の拝観を通して二人の交流に思いを馳せるとともに、当協会とドイツとのさらなる発展を祈念することを目的とします。多くの会員のご参加をお待ちしています(別途送付済みのご案内及び申込書参照ねがいます)。

●行事報告

1. ドイツ映画鑑賞会・シュタムティッシュ

7月10日13時30分より、大安寺「獅子吼殿」にてドイツ映画「帰ってきたヒトラー」(ドイツ原題「Er ist wieder da」)の鑑賞会が開かれ、その後シュタムティッシュにうつった。当日の様様を水野恵理子理事より下記のようにご報告いただきました。

「現代によみがえったヒトラーが物まね芸人と誤解され、テレビでの『難民問題、失業…そのうちドイツは奈落の底に落ちる』『今こそ指導者が必要だ』といった主張がSNSでも拡散、喝采を浴び・・・といったゾッとするような“コメディ”で、まさに今の世の中に警告を発しているようでした。そして後のシュタムティッシュでは、どの国も第二次世界大戦前に似た状況がみられる、と映画についての話で盛り上がりました。同日、8名の会員が参加された。



2. 2022年度全国日独協会連合会主催講演会

9月19日東京で開催され、河野会長が出席された。ドイツ大使館大使公邸でのレセプションの後、ドイツ文化会館で講演会が行われた。

●「ドイツ語会話教室」: 長年有志のご尽力により続けてこられたドイツ語会話教室を来年度4月より奈良日独協会主催で新しく開講することになり、準備を進めております。ご期待ください!

●会員だより 工樂 猛志さん(ドイツ在住)から「数字でみるドイツのコロナ事情」

コロナが我々の人生を大きく変えて2年半以上がたちました。今回は、数字をみながらドイツのコロナ事情を少し振り返ってみたいと思います。前回記事を記載させて頂いた時の2020年6月は、ドイツのコロナ感染者は累計19万人で、夏に入って新規感染者の数は減っている状況でした。ほぼ2年半後の今累計で32百万人、ドイツ人口の1/3以上は感染した計算になります。

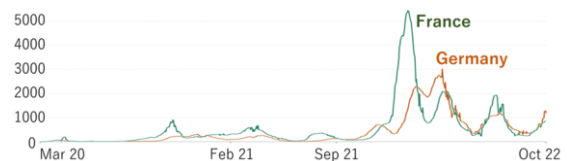
昨年の初めにはワクチンは開発されましたが、当時それが摂取できるか優先順位が大きな話題になっていたのが遠い昔のようです。そのころ興味深かったのは、ドイツでは州ごとに接種率がかなり異なっていたことです。

今でもその影響が残っており、2022年9月時点で3回接種完了は、最も高い州はSchleswig-Holstein州で70%、もう一方最も低いのはSachsen州で50%です。これに比例して、10万人当たりの死亡者はSchleswig-Holstein州で97人、もう一方Sachsen州では392人ととても高く、ワクチン接種がいかに重要かが分かります。

感染者については、南欧やイギリスはオミクロン株の影響で昨年末一気に増え1月がピークでした。それに比べるとドイツは、少し遅れて2022年3月で1週間に140万人(10万人当たりの感染者1700人)というピークを迎えました。遅れた背景は、ドイツでは昨年の夏以降、オミクロンが主になる前の10月頃から感染者が増えていたため、摂取していない人に対してレストランやお店に入店できないなどの制限を設けていたからと言われてます。そもそもドイツ人は一般的に注意深いのかもしれません。ただ、今となっては、周りを見渡しても(電車や病院などを除いて)殆どマスクしている人はおらず、ニュースの一面はエネルギーコストの上昇とインフレです。どのようにこの冬の生活を乗り越えられるかという報道が殆どです。コロナについての話題は殆ど出ませんが、冬に向けてどうなるか不安が残ります。

Bleiben Sie gesund!

(グラフ)



フランス(緑)はオミクロン株の影響で2021年12月から感染者が増え一気にピークに達したが、ドイツ(茶)は同12月末から増え始め今年3月になってからピークを迎えた。ここ数週間また感染者は増加中。

Quelle: <https://ourworldindata.org/covid-cases>

